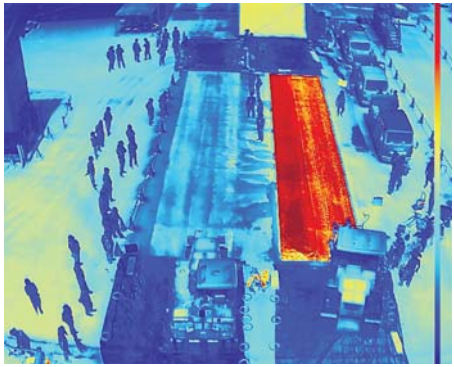
日本道路

低温アス混合物を実証施工
良好な施工性を確認



低温化アスファルト混合物（左）と加熱アスファルト混合物

日本道路は4日、製造・施工時の温度を大幅に下げられる「低温化アスファルト混合物」の実証施工の結果、製造性や施工性が良好だったことを発表した。一般的な加熱アスファルト混合物を使った舗装工事では、作業場の温度が上がるため、熱中症リスクの低減などが課題となっている。今回の実証では、施工に当たった作業員に聞き取りを行い、現場環境が大幅に改善できたことも確認した。

実証は8月、同社アスファルト合材工場敷地内で実施した。施工には一般的な加熱アスファルト混合物に使用する重機を使い、製造性と施工性を検証した。

これまでの屋内検討により、材料製造からおおむね6時間は、品質を確保して施工できることが分かっていた。今回の実証では、製品製造から6時間後に施工した。隣接箇所は一般的な加熱アスファルト混合物で舗装し、熱感知カメラで比較した。

この製品は、同社の水で固まる反応硬化型常温合材「ミニロードK」を応用して開発した。材料は、水との化学反応で強度を発現する。製造時の温度を通常のアスファルト混合物よりも約30度低減できる。一般的な中温化技術よりも低い温度で製造できる特長を持ち、常温域での施工が可能だ。